

# だいにこく通信 第七号「秋の号」

## にやうこわい

日頃より当神社での神明奉仕にご協力を賜り、ありがとうございます。

社報「だいにこく通信」第七号をお届けします。引き続き、社殿及び社務所の新築工事を進めております。詳細は、次の「大國神社の今」をご参照ください。工事後は、これまでよりもだいぶ小さな境内になりますが、可能なかぎり旧境内の雰囲気的面影を残しつつ、崇敬者のみなさまに安心してお参りいただける環境を作りたいと考えております。また、催しなど新しい試みも構想中です。

今後ともなにとぞよろしくご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます。(写真は本殿の屋根部分)



大國神社 宮司 大島資生

## 大國神社の今

〈新築工事の様子〉

社殿が完成に近づきました。本年十一月末には社務所の新築及び境内整備が完了する予定です。

なお、隣地の共同住宅は土地の買い主である建築会社が管理・販売・運営するもので、当神社とは一切関係ありません。当神社は共同住宅の大家ではありません。

境内整備後、神社の門は旧来とほぼ同じ位置に設置いたします。社殿は門から入ってほぼ真正面に建築予定で、建て替え前の社殿よりいくぶん広くなる予定です。また、旧本殿を新しい本殿の内部に復旧する予定です。社殿と同時に、門を入って向かって右手に社務所を新築いたします。(写真は社務所建築現場)



## お宮あれこれ〜祝島訪問の記〜

先日、山口県上関町祝島を訪ねました。祝島は山陽本線の柳井港から連絡船で一時間強、人口四百八十人ほどの小さな島です。ここは、中国電力の上関原子力発電所の建設予定地にほど近く、建設計画が発表されて以来三十年もの間、反対運動の中心となっていたところです。最近テレビなどでも紹介されているので、ご覧になったかたもいらっしやるかもしれません。

ごく短い滞在でしたが、三代にわたって柵田を受け継いでいる農家の平萬次さんに運良くお話をうかがうことができました。今回は、平さんからうかがったお話を紹介してみたいと思います。

今年八十歳になるといふ平さん。柵田を守る後継者はなく、わたくしたちにも「あんたらが今度ここへ来るこゝがあつたら、きつと荒地に戻つてゐるだらう」とおっしゃっていました。

平さんのお祖父さん(平亀次郎さん)といふかたは大変ユニークなかただったようで、一念発起して、島の集落から歩いて一時間以上も離れた場所の斜面に柵田を作り始めました。そして、家族の手だけで、高さが最大九メートルはある田を作り上げたとのこと。堂々とそびえる石垣は訪れた者を圧倒します。(下段の写真をご覧ください)

しかし、亀次郎お祖父さんはお元気な頃から、「世の中、変わらぬものなんて、ない」とおっしゃっていたそうです。そして、萬次さんに、「柵田はお前の代までで、そのあとは荒地に戻るだらう」と

語っていたとのこと。

亀次郎さんは「動物の中で、人間が一番つまらん」と語っていたといひます。なぜかというところ「自分ですみかを作ることができないから」。柵田作業のための小屋も自分で建ててしまつたそうです。食べ物についても同じように考えていらしたのでしよう。自分で食べるものは自分で作らなければ、と。だから、敢えて柵田を作るといふ難作業にこだわつたのだと思ひます。

亀次郎さんが柵田を作り始めた頃は、牛馬を使つた耕作でしたが、いづれ機械化することを見越していたといひます。もしかすると、機械を導入することで人間自身の身体がもつ力が弱まることを予見していらしたのかもしれない、とふと思ひました。





それにしても、重機も何もない時代に人力と経験のみをもとに巨石を緻密に積み上げ、広々とした柵田を作り上げた熱意と行動力には本当に驚かされました。萬次さんは、この柵田を観にきた人には、「人間、その気になればたいはいのことはできるものだ」ということを感じ、元気を持って帰ってほしいとおっしゃっていました。

祝島は離島で、決して便利なところとは言えません。高齢化も進んでいます。しかし、美しい海、新鮮な海の幸、豊かな緑に恵まれた島には、非常に濃密な時間がゆったりと流れていると感じました。与えられた環境の中で、その環境に合わせて、自分たちの生活を可能な限り自らの手づくり上げていく。平亀治郎さんはそういう生き方をなさったかただと考えます。そして、島に暮らすひとたち

の中にその精神が今も息づいていると感じました。

平さんのお話をうかがったことは、自分自身の暮らしを省みる良い機会となりました。都会では、自分の手を動かすことなく、必要なもの、ほしいものが好きなきに手に入ります。そんな都会の生活は本当に豊かなものだといえるのか、改めて問い直すきっかけを与えてもらったように思います。(上段の写真は祝島集落の練り堀)

### 「寄付受け付け」案内

このたびの工事に当たり、皆様からたくさん温かいご支援をいただいております。この場をお借りして厚くお礼申しあげます。引き続きご寄付を受け付けております。詳細はお問い合わせくださいませ。

### 尊像代金について

以下の通りお願いしております。

第一体目から四体目まで 一〇〇〇円

第五体目から七体目まで 一五〇〇円

なにとぞご理解・ご協力をお願い申し上げます。

## 祭礼・祈禱のご案内

○次回甲子祭

十一月五日(土) ご祈禱受付時間 午前五時～十二時

○開運千人講祈禱祭 毎月一日(午前六時～正午まで)

○お祓いのお申し込み・お問い合わせなどは以下の電話番号にお願いいたします。

不在の場合は、恐れ入りますが、留守番電話のメッセージのあとで、お名前・お電話番号・ご用件をお話してください。のちほどこちらからご連絡いたします。

○諸祈禱受付 商売繁盛祈願、心願成就祈願、厄除け、お宮参りなど、随時祈禱を行っております。祈禱日時については、お電話にてご相談ください。

〈お問い合わせ・お申し込み〉

○三二三九一八七九三〇(ファクス共)

お急ぎの場合は携帯電話へどうぞ

○八〇一―九八七―八七一一六

eメール [daikokujinja@gmail.com](mailto:daikokujinja@gmail.com)

## ウェブサイトのご案内

当社のウェブサイト(ホームページ)を公開しております。

神社からのお知らせ・神社の由緒のほか、「だいきく通信」の内容も一部抜粋して掲載しております。さまざまなお知らせに活用したいと存じます。機会がありましたら、ぜひご覧下さいませ。なお、ツイッターにも参加しております(アカウントは@daikokujinjaです)。

<http://www.daikokujinja.org>

## 次号発行予定

「だいきく通信第七号」、いかがでしたか。次号「冬の号(新年号)」は、来年一月四日の甲子祭に発行予定です。

「だいきく通信」第七号 平成二十三年九月六日発行

編集・発行 大國神社社務所

〒一七〇―〇〇〇三 東京都豊島区駒込三―二―十一大國神社仮殿内